

「一万円からお預かりします」を巡って

About the Expression 'Ichiman-en kara Oazukari Shimasu'

梅本 孝

Takashi UMEMOTO

1. はじめに

最近の日本語は乱れているということが世に喧伝されている。しかし、規範を逸脱する今までつかわれなかった表現が使われるようになり、それが定着した場合には定着するだけの心理的、認知的、社会的要因がある場合もあると考えられる。「言葉が乱れている」、「言葉がゆれている」ということは簡単であるが、時にはその背後に存在するかも知れない原因を考えることも必要である。

この小論では「一万円からお預かりします」を巡って考察を加える。初めてこの表現に出会ったのは何時のことか覚えてはいないが、普通に考えても、どう考えても、この表現には奇異であるという印象が残ってしまう。この表現の始まりに関してインターネットでの議論を参照すると、ある程度一致した意見として消費税の導入がこの表現の発生の遠因となっているとされている。始まりは兎も角、いまやコンビニその他のレジではこの表現が浸透し、この表現がもはや規範になりつつある印象さえ受ける。ここまでこの表現が浸透するからにはそれだけの理由を無理やりにでも考えて見ることは価値がないとは言えない。もっとも将来的にずっとこの表現が残るかどうかは誰にも分からない。

この表現が成立する基盤は恐らく複数あると考えられるが、演繹的に2方向仮説とでも呼べるような考え方と類像性について挙げ、この表現の成立基盤の一つとして考えられ得るということを主張する。

その際に表現の複合説、高額紙幣に対する丁寧語説、お客様に半端なお金、小銭がないかどうか確認するためという説、「客＝金」という説、計算の出発点になっているという説、一種の接尾語となっているという説についても考察する。

2. 複合説

最初に複合説とでも呼べるような考え方を見る。「一万円からお預かりします」という表現は「一万円からX円頂きます」と「X円お預かりします」の複合した表現であるとする考え方があり、確かにこの考え方は直感に合致しており一理あると思われる。しかし、この考え方だけではレジでのお金のやり取りにはお金を預かるだけではなく、その後お釣を渡すという行為までが成立して初めて一つの事態が成立するという社会的な認識を反映し

ているとは言えない。また、「一万円からお預かりします」という表現とお釣を予想できない「X円ちょうどからお預かりします」という表現を比べると、後者の方が容認度がかなり落ちるとすることも留意しなければならない。論文の最後に付けた appendix として付与した文化庁の『国語に関する世論調査：世論調査報告書平成9年1月調査』（平成9年1月10日～21日調査、全国の16歳以上の男女3000人、個別面接調査による。回収結果：有効回収数（率）2240人（74.7%））では（千円未満の買い物をした時店の会計で、店員が）「千円からお預かりします」は4割弱の38.4%の人が気になるとしているのに対して、（千円ちょうどの買い物をした時店の会計で、店員が）「ちょうどからお預かりします」の表現に対してはなんと半数を大きく超える61.1%の人が気になると答えている。その差は22.7%もあり、無視できる差ではない。詰まり、この表現はお釣の生じる場面で使われるときに大きく容認度が上がることを示している。この単純な複合説ではこのことが説明できない。

3. 高額紙幣に対する丁寧語説

この表現は高額紙幣に対する丁寧語であるという考え方もあるが、これはかなり怪しい。日本銀行に問い合わせたところでは平成14年8月末の時点で、一万円券は60億枚、千円券は32億枚が流通しているということである（ただし、このデータの千円券には、肖像が聖徳太子の千円券の流通高も含まれるという回答であった）。詰まり、単純に考えれば一万円券は千円券の約2倍も流通していることになる。そうすると、「一万円からお預かりします」の方がよく使われる、或いは、問題にされている蓋然性が高いことになる。しかし、例えば平成14年11月1日14時40分現在、Yahoo Japan においては「千円からお預かりします」のヒット数が109件であるのに対して、「一万円からお預かりします」のヒット数はその半数以下の44件しかない。infoseek でも前者が171件であるのに対して後者は三分の一以下の48件しかない。前回一ヶ月ほど前に infoseek で調べた時は前者が88件に対して後者が半数弱の36件であったので、その差は広がっている。これらのサイトでは実際の体験談に基くものもかなりあるので、実際に使われる頻度をかなりの程度表していることが推察出来る。詰まり、一万円券は流通量が多いにも拘らず「一万円からお預かりします」が使われる頻度は「千円からお預かりします」に遥かに譲ると考えられるので、この表現を単純に高額紙幣に対する丁寧語であると言うのには無理がある。

4. お客様に半端なお金、小銭がないかどうか確認するためという説

確かに、例えば、税込みで5356円の食事をした時などに一万円札を出しながら財布をごそごそやった後で半端なお金がないことが分かったような顔をする。「一万円からでよろしいでしょうか」とレジで言われる。これは明かにお客さんが半端なお金、例えば、6円や56円がないかどうかの確認を取っている。同時に「確かにお客様から一万円を預かりました」ということの確認にもなっていると考えられる。しかし、それだけではどうして「一万円お預かりします」、或いは「一万円をお預かりします」ではなくて「一万円からお預かりします」になるのか説明が出来ない。

5. 「客＝金」という説

例えば、小林（2002）の中で作家の林譲治による考え方として紹介されている説。例えば、「二〇〇〇円から」というのは「客＝金」という関係が成り立てば日本語として間違っていないとされている。詰まり、「二〇〇〇円から」は「お客様から」ということである。しかし、それではどうしてこの表現がお釣が期待されるときに好んで用いられるのかということが全く説明できない。又、この説の言わば変異体として「お客様から二千円をお預かりします」と先ず考えてそこの「から」が二千円の後ろに移り、「お客様」が略されたと考えているものもある。しかし、この場合もやはりこの表現がお釣というコンテキストを要求することが多いことを何も説明出来ないことになる。

6. 計算の出発点になっているという説

一例を挙げると、信太（2001）のホームページの中に伊深宣一氏の考え方として挙げられている。例えば、「915円の買い物に対して端数15円を足さずに、千円（を出すのですか？ そこ）から（お釣りを計算しと言うことならその金額を）お預かりします」と言う事であると推測している。伊深氏は「から」という格助詞を挟むだけで長い、多少憚られるようなニュアンスを伝えようとしているとも結論づけている。こう考えると、「千円を出すのですか？」と「そこからお釣りを計算しと言うことならその金額をお預かりします」という文の複合と考えるとこれは一種の2の複合説の立場をとっていると言えなくもない。

7. 一種の接尾語となっているという説

飯田（2002）はこの「から」は丁寧の意味を込めた一種の接尾辞として生産的に付与され始めていると考えている。その理由として以下の例を挙げている。1. 「八六六円ちょうどからお預かりします」2. 「クレジットカードからお預かりします」。しかし、これは現状の語法の観察であって、これではもともとどうして『から』が使われるようになったのかという動機付けを説明することにはならない。そこで、「借りる」2方向仮説を応用してここの「から」の動機付けを考察する。ここでの2方向性仮説というのは Ikegami(1987)にある考え方の一部を指すものであり、その中ではこのようなネイミングは行われてはいない。この名前は著者が勝手につけたものである。

8. 「借りる」の2方向性仮説

この表現を考える前提として「借りる」という動詞を考えてみる。

- (1) 彼から一万円を借りる。
- (2) 彼に一万円を借りる。

『借りる』という動詞は貸し手の項をからで表すこともにで表すことも出来る。からは起点を表し、には着点を表す。論理的に考えれば一万円は彼を起点とし、彼から移動して話者のところを着点にしてそこに届く訳である。従って、そう考えれば貸し手を起点とする(1)の表現しか許されない筈である。しかしどう言うわけかからを使う(1)の表現に加えてにを使う(2)の表現も極普通の表現として使われる。この理由は借りるという概念は2方向性を持っていることによると思われる(Ikegami 1987)。詰まり、借りたものは返さなければならないということである。彼から一万円を借りるということは取りも直さず彼に一万円を返す、と言うことでもある。或いは、彼から一万円を借りることは彼に一万円を返すことを先読みしているということも出来る。別の角度から見れば、行為 A (彼から一万円を借りる)と行為 B (彼に一万円を返す)が密接不可分になっていると考えることが出来、それが言語の表現にも現れていると考えることも出来る。あるものを借りれば、それは返さなければいけないことは日本では社会的に認知された常識であると言える。もっと言うところこれは言語表現とそれが表わしている事態が平行しているのでその二つが類像的(iconic)な関係になっているということも出来る。

9. 類像性(Iconicity)

類像性とは記号学大辞典(2002)によると、記号の性質や形式若しくはその両方がその対象とするものの性質や形式若しくはその両方と何らかの点で類似していることを表す。ここでは「一万円からお預かりします」という記号の性質及び形式とそれが表す事態、詰まり、「お客さんがお金を店員に渡す」という事態との間に類似関係があるということである。又、University of Amsterdam と University of Zurich が共同で開いているホームページによると類像性は以下のように定義されている。

Iconicity as a semiotic notion refers to a natural resemblance or analogy between the form of a sign ('the signifier', be it a letter or sound, a word, a structure of words, or even the absence of a sign) and the object or concept ('the signified') it refers to in the world or rather in our perception of the world.

この定義によると the form of sign('the signifier')が言語形式の「一万円からお預かりします」であり、the object or concept('the signified')が「お客さんがお金を店員に渡す」という事態ということになる。言語形式とそれが表す事態は何も色が付いていない default の状態では言語形式はその事態と何らかの意味での類似性を持つと動機付けされている。そうでなければ言語形式が何を表すかが理解し難くなるからである。言語形式の順序と発生した事態の順序を同じくすることは類像性の例としてよく取り上げられる。シーザーの“veni, vidi, vici”(来た、見た、勝った)の例が有名である。この場合言語形式とそれが表す発生した事態の順序が違う場合は違うということは何らかの方法で明示する必要が生じる。この論文が扱っている例に即して類像性を考えれば、「お客さんから店員がお金を預かる」という事態と「そこから店員がお客さんにお釣を渡す」という事態の二つの事態そ

「一万円からお預かりします」を巡って

のものの密接不可分性とそのことをわざわざ二つの文を使って表すのではなく一つの文だけで表すこととの間に類像性が生じる。

10. 「一万円からお預かりします」の2方向性仮説と類像性

以上の前提を踏まえて次の文を考えてみる。

(3) 一万円からお預かりします。

9節で既に述べたようにこの表現も(2)と同じように2つの行為が重なり合った、密接不可分な事態を表わしているとは考えられないだろうか。或いは、「預かる」ということは何か別の行為を先読みさせることにはならないだろうか。ものを「借りる」ということが発生した場合に、そのものを「返す」という行為が密接不可分である。或いは、「借りる」ことは「返す」ことを先読みするのと同じように考えてみると「預かる」はどうなるだろうか。ものを預かると当然そのものを返さなければならない。しかし「預かる」は「借りる」とことばの振る舞いにおいてまったく平行しているわけではない。

(4) 彼から一万円を預かった。

(5) *彼に一万円を預かった。

勿論、将来的には(5)が使われる可能性もあるであろう。しかし、「借りる」場合は「誰から」、「何を」借りたかが重要であるが、レジにおける「お預かり」は「誰から」預かったかは重要ではなく、「幾ら」預かったかの部分が重要である。ここでもう一度(3)の文を再掲して考える。

(6) 一万円からお預かりします。

預かったものは当然返さなければならないのだが、お店のレジのお姉さんに一万円を預けても、それをそのまま返してもらったためしはない。返してくれるのはお釣だけである。しかし、一万円を返す代わりにお釣は返さないといけない、従って、一旦(6)の文を規範的な文に直した(7)は(8)或いは(9)の文を先読みしていると考えすることは出来ないだろうか。或いは、(7)と(8)或いは(9)は密接不可分な事態が言語に立ち現れていると考えられないだろうか。

(7) 一万円をお預かりします。

(8) 一万円からお釣をお渡しします。

(9) 一万円から(お代を頂き且つ、そこから)お釣をお渡しします。

詰まり、一万円を預かり、その中からお釣を渡す、という二つの事態が(8)若しくは、(9)の言い方によって一つの文で表されていると考えることが出来る。レジでのお金の

やり取りはお客さんからレジの係りがお金を受け取り、レジの係りがお客さんにお釣（お釣がないときはレシート）を渡してようやく一つのまとまった事態が完結する。詰まり、「借りる」と同様に二つの方向性が関与する一つのまとまった事態である。言語表現の顕現が実際の事態を顕している蓋然性が高いと判断すれば、その程度に応じてこの議論は正当性を持つことになる。

又、多少違う観点から見れば起点の「から」のみを残して着点の表現を表していないということは未だ事態が完結していないと言うことを積極的に表現していることになる。ディスコースのレベルで考えれば、起点は原因や理由と言う概念と繋がり、着点は結果と言う概念と繋がる。人は結果が分かっているならば原因が分からなくとも安心するが、原因、理由が分かっているけれども結果が分からない状態は精神的に不安定な状態と言える(Ikegami 1987)。従って、この表現の「から」は事態の未完結、詰まり、この場合はお釣を渡してやっと事態が完結することを顕している。

1 1. 結語

本稿では「一万円からお預かりします」という表現を巡ってその成立の基盤を考察した。言語とその言語が表す事態との類像性(iconicity)の原則に基きこの表現の成立を考えた。

要因は複合的であると考えることが出来るが、この表現は詰まるどころお釣が予想される場面で使われることが妥当性を持つその分だけ「から」はお釣を返す表現を内包していると考えることが出来る。

今後のこの表現の動向に関して一言述べることによって締めくくりとしたい。「一万円からお預かりします」という表現は起点を表す「から」は存在するが、その逆の着点を表す「に」はない。起点と着点という概念は論理的には等価であると推察出来るが、人間の認識にとっては非対称性を持つ。起点と着点が共に存在する文の安定度が高いのは当然だが、起点のみ存在する文と着点のみ存在する文とを比べると、着点さえあれば文としてかなり安定することが読み取れる(Ikegami 1987)。例えば、以下の文を参照。

(10) 東京から静岡に引っ越した。

(11) 静岡に引っ越した。

(12) ?東京から引っ越した。

(12)の起点のみが明示されている文はどこに引っ越したかが文脈で理解されるとき意外は文としての安定度が低い。それに対して、起点なしで着点だけが明示されている(11)はたとえ文脈で起点が分からなくても表現としてかなり安定している。

「一万円からお預かりします」という表現は一目見て分かるように起点と着点のうち「から」という起点のみが存在している表現である。従って、この表現はその理由だけに限っても本質的に人間の認知の観点からみて不安定な要素をもっていると言うことが出来る。故にこの表現はいつまでたっても安定した表現とはならず、もし存在し続けるとしても何時までも常にどこか座りの悪い表現として存在し続けるであろう。

参考文献

- 文化庁文化語部国語課(1997)『世論調査報告書平成9年1月調査国語に関する世論調査』、大蔵省印刷局
(<http://www.monbu.go.jp/news/00000081>)
- 飯田朝子(2002)「〈新・接客表現〉はことばの乱れか変化か」『言語』Vol.31, No.9, pp. 52-56, 大修館
- Ikegami(1987) “‘Source’ vs. ‘Goal’ :A Case of Linguistic Dissymmetry,” *Concepts of Case*, ed. by Rene Dirven and Gunter Radden, 122-146, Gunter Narr Verlag Tubingen, Tubingen.
- 小林泰三(2002)「駄文12 『～円からお預かりします』」
(http://web.kyoto-inet.or.jp/people/kbys_vsm/dabun12.html)
- 信太郎(2001)『「千円からお預かりします」とは何事か?」
(<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/6084/oazukari.htm>)
- University of Amsterdam and University of Zurich (2002) *Iconicity in Language and Literature*
(<http://home.hum.uva.nl/iconicity/>)

調 査 の 概 要

1. 調査の目的 国語をめぐる現代の社会状況の変化に伴う、日本人の国語意識の在り方について調査し、今後の施策の参考とする。
2. 調査項目 (1) 敬語についての意識
(2) その他の言葉遣いについての意識
(3) 外来語の理解度
3. 調査対象 (1) 母集団 全国16歳以上の男女個人
(2) 標本数 3,000人
(3) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
4. 調査時期 平成9年1月10日～21日
5. 調査方法 調査員による面接聴取法
6. 調査実施機関 社団法人 中央調査社
7. 回収結果 (1) 有効回収数(率) 2,240人(74.7%)
(2) 調査不能数(率) 760人(25.3%)

— 不能内訳 —

転居	75	長期不在	70	一時不在	286
住所不明	16	拒否	293	その他	20

〔本報告書を読む際の注意〕

1. 百分比は回答者（n）を100%として算出し、小数点第2位を四捨五入したため百分比の合計が100%にならない場合がある。
2. 質問の種類を示す記号は次のとおりである。
M. A. : Multiple Answersの略で、1回答者が二つ以上の回答をすることができる質問。
したがって、この質問では、回答率の合計が100%を超えることがある。
〔回答票〕 : 回答の選択肢を列記した「回答票」を対象者に示して、その中から回答を選ばせる質問。
3. 図表等に「-」と表示してあるのは、回答者がいなかった場合である。
4. 本調査で用いた都市規模区分は次のとおりである。
大 都 市（東京都区部、政令指定都市）
中 都 市（人口10万人以上の市）
小 都 市（人口10万人未満の市）
町 村
5. 本調査で用いた地域ブロック区分は次のとおりである。
北海道 — 北海道
東 北 — 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関 東 — 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北 陸 — 新潟県、富山県、石川県、福井県
中 部 — 山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近 畿 — 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中 国 — 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四 国 — 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九 州 — 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
6. 調査結果の誤差の計算は、2段抽出法による標準偏差の計算式（信頼度95%）

$$\pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(1-P)}{n}} \text{ で計算できる。}$$

上記の式について、N=母集団数 n=実回収数 P=回答率 である。

$$\text{なお、} \frac{N-n}{N-1} \approx 1 \text{ で計算できる。}$$

Appendix 1

『国語に関する世論調査：世論調査報告書平成9年1月調査』文化庁文化
部国語課

p. 1及び2

「一万円からお預かりします」を巡って

八つの言い方を地域ブロック別、性別、性・年齢別に見ると、次のとおりである。

「(1) ドアを閉めさせていただきます」

「ドアを閉めさせていただきます」という言い方については、「気になる」が18.8%、「気にならない」が78.1%と、「気にならない」が8割近くを占める。

地域ブロック別に見ると、いずれの地域でも「気にならない」が7割を超えているが、「気になる」は近畿で24.2%、中部で23.3%とやや高い。

性別による差はほとんどないが、性・年齢別に見ると、「気になる」が男性の50代以上と女性の16～19歳でやや高い。「気にならない」は男性の20～30代と女性の30代で85%前後と特に高い。

「(2) これで会議を終了させていただきます」

「これで会議を終了させていただきます」という言い方については、「気になる」が8.1%、「気にならない」が89.3%で、八つの事例の中では2番目に「気にならない」の割合が高い。

地域ブロック別に見ると、いずれの地域でも「気にならない」が9割前後を占めている。

性別による差はほとんどないが、性・年齢別に見ると、「気になる」は男性の16～19歳で12.1%、50代で12.2%とやや高い。

「(3) 明日は休業させていただきます」

「明日は休業させていただきます」という言い方については、「気になる」が7.1%、「気にならない」が91.6%で、八つの事例の中では「気にならない」の割合が最も高い。

地域ブロック別に見ると、いずれの地域でも「気になる」は1割未満である。「気にならない」は北海道で97.0%と特に高くなっている。

性別による差はほとんどないが、性・年齢別に見ると、「気になる」は男性の16～19歳と男性の60歳以上で1割強見られる。

「(4) この商品は、値引きさせていただきます」

「この商品は、値引きさせていただきます」という言い方については、「気になる」は18.3%、「気にならない」は78.5%と、「気にならない」が8割近くを占める。

地域ブロック別に見ると、いずれの地域でも「気にならない」が7割以上を占めているが、北海道で86.0%と特に高い。

性別による差はほとんどないが、性・年齢別に見ると、「気にならない」は男性の20代で85.9%と8割を超えて高い。

「(5) お会計のほう、1万円になります」

「お会計のほう、1万円になります」という言い方については、「気になる」が32.4%と3割を超えており、八つの事例の中では「気になる」の割合が3番目に高い。「気にならない」は63.7%である。

地域ブロック別に見ると、「気になる」は中部で37.7%、関東で37.2%と高く、東北で20.8%と低い。また、東北では「気にならない」が72.8%を占め、他の地域に比べて高くなっている。

性別による差は余りないが、性・年齢別に見ると、「気になる」は男性の60歳以上で38.5%と高く、男性の16～19歳で19.0%と低い。

「(6) 千円からお預かりします」

「千円からお預かりします」という言い方については、「気になる」が38.4%と4割近くを占め、八つの事例の中では「気になる」の割合が2番目に高い。「気にならない」は58.0%である。

地域ブロック別に見ると、「気になる」は中部で54.7%、中国で51.0%、北陸で49.5%と高く、この3地域では「気になる」の割合が「気にならない」を上回っている。一方、東北、九州では「気になる」は2割前後と低い。

性別による差はほとんどないが、性・年齢別に見ると、「気になる」は男性の50代で高く、「気にならない」とほぼ同程度となっている。一方、「気になる」は男性の20代では14.8%、女性の16～19歳では20.0%と低い。

「(7) ちょうどからお預かりします」

「ちょうどからお預かりします」という言い方については、「気になる」が61.1%と6割を占め、八つの事例の中では「気になる」の割合が最も高い。「気にならない」は35.0%である。

地域ブロック別に見ると、先の「千円からお預かりします」と同様、「気になる」は中部で71.4%、中国で71.3%、北陸で70.9%と高く、東北で42.8%、九州で50.7%と低い。また、北海道でも50.0%と低い。

性別による差は余りないが、性・年齢別に見ると、「気になる」は女性の40代で68.6%と最も高い。一方、「気にならない」は男性の20代で43.0%と最も高い。

「(8) 白ワインは冷やしたほうが、おいしくいただけます」

「白ワインは冷やしたほうが、おいしくいただけます」という言い方については、「気になる」が12.5%、「気にならない」が83.2%と、八つの事例の中では3番目に「気にならない」の割合が高い。

地域ブロック別に見ると、いずれの地域でも「気にならない」が8割前後を占める。

性別による差は余りないが、性・年齢別に見ると、「気になる」は女性の30代で19.4%とやや高い。

表2 気になる言い方（「させていただきます」など）（地域ブロック別、性別、性・年齢別）

n	(1) ドアを閉めさせていただきます	(2) これで会議を終了させていただきます	(3) 明日は休業させていただきます	(4) この商品は、値引きさせていただきます	(5) お会計のほう、1万円になります	(6) 千円からお預かりします	(7) ちょうどからお預かりします	(8) ホワイトは冷やしたほうが、おいしくいただけます							
	気になる	気になる	気になる	気になる	気になる	気になる	気になる	気になる							
総数	2,240	8.1	89.3	7.1	91.6	18.3	78.5	32.4	63.7	38.4	58.0	61.1	35.0	12.5	83.2
〔地域ブロック〕															
北海道	100	12.0	85.0	3.0	97.0	13.0	86.0	32.0	62.0	37.0	62.0	50.0	47.0	12.0	86.0
東北	173	14.5	78.6	6.9	86.7	19.7	75.7	20.8	72.8	18.5	75.1	42.8	52.0	5.8	88.4
関東	697	18.1	79.9	8.8	89.7	19.7	77.5	37.2	60.1	36.0	61.1	62.3	35.0	13.3	83.6
北陸	103	16.5	83.5	8.7	91.3	24.3	73.8	27.2	69.9	49.5	46.6	70.9	25.2	15.5	81.6
中部	318	23.3	74.2	9.7	88.1	19.2	77.7	37.7	60.4	54.7	43.7	71.4	27.4	14.5	80.5
近畿	364	24.2	72.3	7.2	92.9	15.4	81.9	28.8	66.5	42.6	51.9	62.9	30.5	15.1	78.3
中国	143	12.6	84.6	7.0	91.6	19.6	75.5	34.3	57.3	51.0	44.8	71.3	23.8	11.9	84.6
四国	68	19.1	76.5	4.4	89.7	16.2	76.5	26.5	63.2	32.4	61.8	60.3	23.4	11.8	79.4
九州	274	17.9	78.1	9.9	86.9	16.8	80.3	28.5	69.0	24.1	73.0	50.7	46.0	8.8	88.3
〔性別〕															
男性	1,021	19.9	76.8	7.4	91.5	18.1	79.1	33.1	63.2	39.0	58.2	60.2	36.6	11.5	83.8
女性	1,219	18.0	79.2	6.8	91.7	18.5	77.9	31.7	64.2	38.0	57.9	61.9	33.7	13.5	82.7
〔性別・年齢〕															
男性・16～19歳	58	19.0	77.6	12.1	87.9	24.1	75.9	19.0	79.3	31.0	67.2	60.3	36.2	17.2	81.0
20～29歳	135	10.4	87.4	5.2	94.8	11.9	85.9	25.9	71.1	14.8	83.7	54.1	43.0	12.6	86.7
30～39歳	139	14.4	84.9	2.2	97.1	20.9	77.0	36.7	61.2	36.0	62.6	61.2	36.7	10.8	87.8
40～49歳	201	21.4	75.6	6.0	94.0	18.9	79.1	34.8	62.2	43.8	54.2	62.7	35.8	10.9	85.6
50～59歳	205	23.4	71.7	7.3	90.7	18.5	77.6	30.2	66.8	47.3	48.3	59.5	36.1	12.7	80.0
60歳以上	283	23.7	72.1	11.3	86.6	17.7	78.8	38.5	55.1	44.2	51.9	61.5	34.6	9.5	82.7
女性・16～19歳	65	26.2	72.3	9.2	90.8	21.5	73.8	24.6	73.8	20.0	76.9	58.5	40.0	16.9	83.1
20～29歳	183	16.9	81.4	6.6	92.9	20.2	77.0	29.0	66.7	23.0	66.1	61.7	33.9	14.2	85.2
30～39歳	222	13.5	85.6	4.5	94.6	20.7	77.0	29.7	67.6	33.3	64.0	65.8	30.6	19.4	77.9
40～49歳	261	21.1	77.4	7.3	92.0	18.4	78.2	35.6	61.3	45.2	50.6	68.6	23.0	13.4	83.1
50～59歳	236	20.3	75.4	8.9	88.6	17.4	78.4	35.2	59.3	44.5	52.5	58.5	37.7	8.9	86.0
60歳以上	252	15.1	79.4	6.0	91.3	15.9	79.8	30.2	64.3	39.7	54.4	55.6	36.9	11.1	81.3

Appendix 2

『国語に関する世論調査：世論調査報告書平成9年1月調査』文化庁文化
 部国語課 p. 6～9